

令和 7 年度 県立牛久高等学校自己評価表

目指す学校像	①「進路を極める牛久」、「人間性を高める牛久」、「国際社会を生きる牛久」を 3 つの柱とし、生徒が様々な教育活動に参加し、主体的に学び活動できる環境をつくる。 ②「キャリア教育」を念頭に、教育活動を計画し実践する。生徒一人一人の進路希望の実現を目指す進学校として、知育・徳育・体育の全人的教育を行い、地域から信頼され存在感のある学校を目指す。 ③社会の一員としての役割を自覚し、実践する心を育成する。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 国際感覚を身につけ、社会に貢献できる人財 自ら課題を発見し、探究していくことができる人財 自己の特性を理解するとともに他者を尊重し、多様な人々と協働できる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 社会とつながる機会として、「探究活動」、「異校種との学校間交流」を設定する 「先輩の話を聴く会」、「大学模擬講座」などの行事を実施し、キャリア教育を推進する 科目によって習熟度別の授業や課外授業を設定し、一人ひとりのニーズに応える 科目横断的な学習内容を多くの科目で設定し、グローバルなものの見方を養う	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 明るく 対話・議論を通して、相手の思いをくみ取ることができる生徒 たくましく ICT を活用し、主体的に学ぶ姿勢を持った生徒 やさしく 多様性を認め合い、世界に目を向けることができる生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
ホームルーム担任による個別面談や授業担当者による個別学習指導など、生徒一人ひとりに応じた丁寧な指導を行っている。 学習指導面では、生徒が主体的に学ぶ授業の展開・実践に学校全体で取り組み、目的意識を持った自主的な学習習慣の確立を促している。 一方で家庭学習は二極化の状況にあり、家庭学習時間の確保、進路目標の早期設定による自学意識の向上が継続的課題である。 進路実績としては国公立大学に 25 名が現役合格した。私立大学への合格者は延べ人数が 500 名を超えるなど、学習・進路指導	学習習慣の定着化	①教員相互の授業研究や生徒が主体的に参加する授業、ICT を活用した授業に関する研修を充実させ、生徒の学習意欲を高めるとともに、「わかる授業」や生徒間の学び合いの工夫・改善に努める。 ②効果的な週末課題・小テストを工夫し、継続的に実施する。 ③生徒個々のタイムマネジメントを確立させ、家庭学習時間を確保させる。 ④検定試験(英検等)の受検を積極的に推奨し、資格を取得させる。	B
	進路意識の高揚	⑤大学入学共通テストを含む進路に関する必要な情報を効果的に提供し、早期に進路目標を明確化させる。 ⑥進路目標達成のためにキャリア教育を充実させ、生徒一人一人のキャリア意識を高揚させる。 ⑦進路希望実現に向けた学力向上のために、積極的に課外授業に参加させる。	A

別紙様式 2 (高)

での成果がみられている。 生徒支援面では、自律的生活習慣の確立を促し登校指導や始業前学習活動「朝活」を 通年で実施しているが、さらに今後も支援 や対策が必要である。生徒の規範意識は高 く、ホームルーム活動や学校行事への参加 は意欲的であり、生徒の主体性を伸長でき る環境づくりを目指したい。		人間性の向上	⑧全職員の共通理解と協力の下に、「USHIKU PRIDE ～離の章～」をスローガンとして規範意識を一層向上させる。 ⑨心を鍛えることを意識させ、人間関係構築力を育み、自尊意識や自己肯定感を高めていく。		B
		特別活動への自発的取り組み	⑩ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の内容を工夫し、生徒一人一人の成長に繋がるものとする。キャリア・パスポートを積極的に活用する。 ⑪運動部、文化部の主体的な活動を積極的に支援する。 ⑫生徒を校内外の研修会に参加させ、各活動のリーダーの育成を図る。		A
		国際教育の推進	⑬国際教育に係る行事を取り入れて、異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、「つながる」ことのできる力を育む。 ⑭生徒を本県主催の国際教育研修に積極的に参加させ、グローバル化に対応できる人材を育成する。		A
		働き方改革の推進	⑮学年、教科、校務分掌等における業務の協力体制を推進する。 ⑯校務の ICT 化や教材の共有等を進め、業務の効率化を図る。		B
		授業改善	⑰生徒一人一人が主体的・対話的に学びながら、「わかる授業」を実践し、授業満足度（KPI）3.4 を目指す。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導	わかりやすい授業を展開する。	目標に沿った授業計画を立て、ICT を活用し、生徒の学習への理解と意欲を高めるとともに、主体的に参加する授業の展開を通じて、生徒の主体的な学習姿勢を促す。 ①②③	B	A	平常課外・夏期課外等で習熟度に対応するとともに、大学共通テストに向けて、長期的な視点で課外を企画・運営していく。
		授業や学習指導に関する教員間での情報交換を密に行い、授業改善をすすめる。 ①②③⑤⑥⑦	A		
		生徒の学習状況や理解度を測り、指導に生かす。 ①②③⑦	A		
		1・2 年次の教科全体において基礎力・応用力養成を図る。 ①②③④⑦	B		
	学習習慣を確立する。	1・2 年次において、英語・数学・国語の 3 教科を中心に週末課題や小テストを継続して実施する。 ②③④	B		
	基礎力・応用力を養成する。	生徒の実態に即し、3 年次における課外授業を充実させる。 ⑤⑦	A		
HR 担任による面談指導を適宜行い、英語・数学・国語の主要 3 教科の学習時間・学習方法等について指導・助言する。 ①③⑥⑦		A			
国語	「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の能力を総合的に高め、全ての教科の基礎としての国語力を培う。 課題解決能力を養うとともに国語に親しみ、自国の文	【1年】「現代の国語」では、実社会に必要な国語力を身につけるために、「読むこと」に関して、読解及び鑑賞を通して理解力を高める。「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関しては教科書の「表現教材」や ICT を活用し、自らの考えや意見を効果的に表現し、伝え合う能力を育成する。 ①②③	A	A	生徒の進路希望傾向を鑑み、3 年間を通して「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の力を育む体系的な授業実践を推進したい。 多様なメディア・ICT の
		「言語文化」では、我が国の言語文化への理解を深めるために、基本的文法事項を体系的に学習する。また古典に親しむ態度を身につけさせ、基本事項や有職故実・時代背景の理解を深めさせる。特に古典文法と漢文句法に関しては、習熟の徹底を図る。 ①②	A		
		【2年】「論理国語」では、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の考えを広げたり深め	A		

別紙様式 2 (高)

評価規準：A ほぼ達成した。

B ある程度達成した。

C やや不十分であった。

D 不十分であった。

	化を尊重する態度を育てる。	たりすることを目指し、「評論」を幅広く学習する。さらに、要旨まとめを通して、主体的な「読み」ができるようにする。 ①②③ 「古典探究」では、授業や課題を通して、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めさせる。特に基本語彙や文法事項、古典常識に習熟させる。 ①②③ 【3年】「論理国語」「文学国語」では、教材ごとに読解のポイントを明確にしつつ、読みを深めさせる。また、実践的な教材を効果的に取り入れ、入試に対応できる力を育成する。 ①② 「古典探究」では、基本事項の確認を行うとともに習熟度を高め、読解力の向上を図る。また、実践問題も積極的に取り入れて入試に対応できる力を育成する。 ①② 「国語探究」では、様々な教材・資料を用いて「考える力」を高めさせ、時にはICTを活用して目的や対象に応じて適切に表現・伝達できる力を育成する。 ①② 授業の目標や課題をわかりやすく設定し教え方の工夫を図り、授業満足度（K P I）の向上を目指す。 ①⑦			活用を通して、対話的活動や言語活動の充実を図りたい。
			B		
			A		
			A		
			A		
			B		
地理歴史	日本史・世界史・地理を関連づけて歴史的・地理的な見方や考え方を身につけさせる。大学入試問題に対応できる学力を養う。	KPIの向上を目指し、わかりやすい授業及び展開を工夫して、地理的事象及び歴史上の出来事の基礎的知識を定着させる。 ①②⑦ 生徒が興味・関心を持ちやすい資料を提示して、学習への意欲を高める。 ①② 授業改善の取り組みを活かし、授業の中に小テストだけでなく、演習・作業など言語活動を取り入れ、自主学習を動機づける。 ①② 大学入試問題演習に早期に取り組み、入試に適應できる学力を身につけさせる。 ①②	B	B	社会的な見方・考え方を培う授業実践を継続する。定期考査の出題形式について、大学入試問題を意識して、思考力判断力表現力を問う問題作成に努めている。
			B		
			B		
			B		
公民	現代の諸課題への関心を高める授業を展開し、自分の考えを表現できる態度を養う。	政治・経済・社会の諸問題について、時事的資料を活用するなどして関心を高め、基礎的事項の定着を図る。 ①② 授業改善の取り組みを活かし、授業満足度を高めるとともに、授業の中に小テストだけでなく、演習・発表など言語活動を取り入れることにより、自主学習を動機づける。 ①②⑦ 法やルールの基本的な考え方を学ばせ、日常生活でも規則を遵守するように意識化を図る。 ①⑥⑦ 大学入試問題演習に早期に取り組み、入試に適應できる学力を身につけさせる。 ①②	B	B	社会的な見方・考え方を培う授業実践を継続する。社会を担う主権者として必要な資質能力の育成に努めている。
			B		
			B		
			B		
数学	論理的思考力、判断力を身につける。基礎学力の向上を図る。家庭学習を行う習慣の定着に努める。進路目標を実現するための実力を養う。	ICTを活用する場面を適切に選択し、主体的・対話的な学習活動をすることで、論理的な思考力、判断力を育てる。またこれらの活動により、生徒の「わかる」を増やし、授業の満足度(K P I)の向上を目指す。 ①⑦ 計算力・基礎学力を向上させるために、演習や小テストを実施する。 ①② 課外の目的を明確にし、内容の充実に努める。 ①③⑦ 週末課題・考査ごとの課題を点検し、家庭学習が定着するように指導する。また、週末課題等が十分でない生徒の指導を工夫する。 ①②③	B	A	授業内での個人端末の利用機会を増やす。また、生徒同士で議論する場面の充実を図り、主体的・対話的な学習活動ができる授業の実践を目指す。
			A		
			A		
			A		
理科	好奇心を喚起する授業を展開し、自発的学習を促す。論理的に考える力をつけさせる。	ICTを活用して、実験・実習や身近な自然現象の解説を行い、そこから得られる素直な驚きや発見を重視し、教科に内在する魅力に気づかせることで自発的な学習の姿勢を育てる。 ①③ 授業内容の背景にある原理原則に目を向けさせ単に知識を獲得させるだけでなく、授業満足度の向上を目指しながら、科学的なものの見方・考え方が身につくように工夫する。 ①②⑦	A	A	さらなる ICT 機器の活用を推進する。身近な例や実験に関して、考察させたり、生徒同士で議論
			B		

別紙様式 2 (高)

	受験に対応できる力をつける。	進学希望をかなえる学力をつけさせるため、授業中の演習・小テスト・課題学習をスモールステップで実施する。また、模試や定期考査の振り返りをさせることで、効果的学習方法の確立をサポートする。②③	A		させたりすることで、科学的な思考力を育む。
保健体育	各種の運動の合理的実践を通して、運動技能を高め強健な心身の発達を促す。 個人及び社会の健康についての認識を深め、生涯を通じて健康に関する課題を解決する能力を育成する。	体力向上を目的として、合理的な練習法を習得するための思考力・判断力・表現力を養う。また運動量の確保、運動の習慣化を図る。①⑨	A	A	体育授業での I C T 機器の活用を増やしていく。
		事故防止に努め、公正・協力・責任などの社会的特性の涵養に努める。①⑨	A		
		授業満足度の向上を図るとともに、生涯を通じて継続的な運動ができる能力と態度を育てる。⑥⑨⑰	A		
		個人及び社会の健康についての認識を深め、それらの課題解決に向けた思考力・判断力を育成する。①⑨	B		
芸術（美術）	美術の創造的な諸活動を通して、個性豊かな表現力・美術の能力の向上を図る。	ICTを有効活用し基礎的な美術用語の理解と制作に必要な技術の理解及び定着に努める。①②	A	A	授業内における ICT のさらなる活用を推進する。相互鑑賞の方法も工夫していく。
		様々な課題に取り組むことを通じて個性の伸長を図り、生涯にわたり美術を愛好する心を育てる。②	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的、実践的な活動を取り入れ、授業満足度（K P I）の向上を目指す。⑰	A		
芸術（音楽）	音楽の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわりを理解し、創意工夫を生かした音楽表現ができるよう技能を身につける。①②	A	A	ICTを活用した鑑賞授業における相互評価の場面を工夫して実施したい。また、グループでの表現活動を充実させる。
		主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育むとともに感性を高め、音楽を通して生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。①②	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的、実践的な活動を取り入れ、授業満足度（K P I）の向上を目指す。⑰	A		
英語	自ら目標を立て、その達成に向けて自主的に学習しようとする態度を育てる。 英語の 4 技能を総合的に高め、基本的なコミュニケーション能力を身につけさせる。 英語学習を通じて異文化を理解し、広い見識をもたせる。	【1年】英語で行う授業を通して 4 技能を統合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の基礎を育成する。①③	A	A	ICTを活用しながらの授業と生徒主体の活動から基本的なコミュニケーション能力定着を目指す。
		ペアワークやグループワークなど生徒主体の活動を展開し、「使える英語」を身につけさせる。①⑭	A		
		語彙力を高め、基本的な文法や文の構造について理解させる。②③	A		
		【2年】英語で行う授業を通して 4 技能を統合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力を育成する。①②④	A		
		定期的に語彙テスト、構文テストを実施し、基礎的な英文解釈の力を身につけさせる。②③	A		
		様々なジャンルの英文を読み、読解力を養うとともに、異文化理解を深める。③⑬⑭	A		
		【3年】文法学習を完成し、英文を正確に解釈できる力を身につけさせる。②③	A		
		長文の論理的な読み方を習得し、正確に、かつスピードをつけて読む力を身につけさせる。①③	A		
		生徒の進路に応じた課外授業を実施し、実態に即した指導を展開する。①④	A		
		【全学年】ICTを活用し、わかりやすい授業の工夫・改善に努める。①	A		
		継続的に週末課題・小テストを実施し、学習習慣の確立を促す。②③	A		
		生徒一人ひとりが主体的に学びながら理解を深める対話的な活動を取り入れ、授業満足度（K P I）の向上を目指す。⑰	B		

別紙様式 2 (高)

情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。 情報社会において適切に活用できるICT技術を養う。	アルゴリズムを表現し、プログラミングの基礎を学習することを通して、論理的な思考力を育成する。①②	A	B	課題発表を通して生徒同士で議論する場面の充実を図り、主体的・対話的な学習活動ができる授業の実践を目指す。
		ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題発表を通して、情報の伝達力を育成する。①⑥	B		
		情報やメディアの特性を理解し、情報セキュリティや情報モラルの重要性をより実感出来るような題材を適宜選択し、生徒の素養を育成する。①②⑥⑧	A		
		授業の目標や課題をわかりやすく設定し教え方の工夫を図り、授業満足度（K P I）の向上を目指す。⑰	B		
家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせる。	各自の生活に目を向けさせ、課題意識をもたせるようにし、具体的な事象を例に生きることについて考え、自立と共生の視点から、基礎的・基本的な知識と技術について総合的にICTを活用し、生徒一人一人が主体的・対話的に学びながら「わかる授業」を実践しK P Iの向上を目指す。①②⑰	A	A	ICT活用としてスライドの共有は結果が良かったが、個別の振り返りは筆記のほうがよい。
		学習した知識や技術を生かし、各自の生活の中で実践する態度を育てる。①②	A		
教務	生徒の主体的・対話的で深い学びを支援する。	ICTを活用した「わかる授業」や主体的に参加する授業等をし展開し、主体的・対話的な深い学びによる学力増進に努める。①②③	A	B	シラバスの作成が不十分であり、生徒の計画的学習を習慣化させるまでに至っていない。来年度作成方法を見直してゆきたい。
		各種検定試験の積極的な受検を促し、明確な目的意識を伴った学習習慣を持たせる。①④⑥	A		
		シラバスの活用により、授業進度を明確化し、生徒の計画的学習を習慣化させる。①②③⑥	C		
		学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方についての研究を推進する。①⑥	A		
	教科指導面での積極的な連携を図る。	教科内や教科間での情報交換を通して、より効果的な授業展開の研究に努める。教員相互の授業参観を促し、授業改善を図る。①②③⑥⑰	A		
情報	校務支援システムを整備する。 情報室体制を確立する。	成績処理・指導要録・調査書のシステムを総合的に整備する。⑤⑥	B	B	職員室（黒板、連絡等）のI C T化を推進する。
		生徒基礎台帳・学年名票・科目別名簿・担任文例集・座席表等を整備する。⑨⑩	A		
		情報室が組織として継続的な対応ができるように教員間の業務を補う体制を構築する。⑩⑯	B		
特別活動	望ましい集団生活を通し、調和のとれた心身の発達と個性の伸張を図り、集団や社会の中でより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育て人間力の向上を目指す。	基礎的な生活集団としてのH R活動を充実させる。⑧⑩	B	A	文化祭の日程・内容（調理等）、部活動を精選する。
		部活動の活性化とその条件整備に努める。⑪⑮	A		
		ボランティア活動等とおして、相互扶助の精神を養い、社会への参画を促す。⑥⑧⑫	A		
		各種行事の充実と生徒会活動の活性化を図る。⑧⑩	A		
		生徒にとって魅力ある学校生活づくりの企画・実行・援助を行う。⑨⑩	A		
		活動内容をキャリア・パスポートに記録し、積極的に活用する。⑥⑩	B		
生徒支援	自律の心を育み、基本的生活習慣の確立を目指す。	生徒をより深く理解しようという意識を持って指導に当たり、生徒のコミュニケーション能力の向上に努める。事故の未然防止を図るとともに、長期休業前後には生徒個々の心のケアにも努める。頭髪検査を実施する。6月・10月には、衣更えに伴う上着指導を実施する。昼休みには学年ごとに巡回指導を実施し、事故の未然防止に努める。夏祭り等における保護者を含めた巡回指導を実施する。定期的に駅前や学校周辺の登下校指導を実施する。⑧⑨	B	A	学校生活並びに交通関係などの規範意識の向上をめざしていく。
	遅刻防止・欠席者減少に努める。	今年度も「朝活」キャンペーンを実施し、8時30分登校を行っていく。遅刻の延べ人数も減少しているので継続して進めていく。生徒との信頼関係を軸に生徒に寄り添った指導を行い、登校渋りや不登校気味の生徒に対する支	A		

別紙様式 2 (高)

		援を充実させる。 ⑧⑨			
	交通安全教育に努める。	年度初めから全校生徒に危険箇所を把握させ、事故に遭った時の対応も周知徹底させる。1年生には牛久高校周辺危険箇所マップを配付し、初期指導やHRを利用した交通安全教育を行うとともに、教科「保健」の協力を得て、交通事故単元の充実を図る。年間2回の自転車安全点検を実施する。原付バイク免許取得者対象に実技講習会を実施する。普通車免許取得者及び教習所入所者対象に交通安全指導を実施する。例年10件程度の交通事故があるため、本年度の交通事故件数をできるだけ減少させる。 ⑧	B		
	不審者対策に努める。	不審者に関する通学路危険箇所を認識し、迅速な情報提供に努める。地域、警察、保護者との連携に努め、未然防止に努める。 ⑧	A		
進路指導	個々の生徒の能力・適性に 応じた進路指導を通して、生徒 の進路希望の実現を図る。	進路希望・学習時間等に関する調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討をし、学年の適切な進路・学習指導をサポートする。 ⑤⑥	A	A	年々多様化が進む入試に 対応できるように最新の 情報収集に努め、生徒・ 教員双方へ提供する。特 に年内入試の拡大に伴う 新規参加大学や受験戦略 の学年間での継承が必要 である。また、各学年と の連携を強化し、生徒一 人一人の希望進路実現に 向けた適切な支援を模索 する。
		全国的な視野で生徒の学力状況の把握・評価を行う（進路講演会・進路研修会・模試分析会・志願校検討会・国公立推薦入試の指導等） ③⑤⑥	A		
	1年「自己探求」、2年「自己 伸長」、3年「自己実現」を学 年の進路目標に掲げ、生徒 の進路意識の高揚を図る。	各学年と連携をとり、各種進路行事の企画・立案をする。 ⑤⑥⑬	B		
		大学・専門学校の公開講座の受講、オープンキャンパス等への参加を勧める。We b サイト等の活用を積極的に推奨する。 ⑤⑥	A		
		進路相談室の資料等を整理し、より利用しやすくするとともに、進路相談に適切に対応できるように努める。指導にあたっては生徒用P Cの利用やICTの積極的な活用を通して、個々に応じた丁寧な指導を心がける。 ⑤⑥	A		
	各学年との連携を図りなが ら、より組織的な進路指導体 制を構築する。	「進路の手引き」、「進路要覧」および「進路面言」を発行し、適切な情報を提供して学年の適切な進路指導をサポートする。指導に際しては、ICTを積極的に活用する。 ⑤⑥	A		
		入試情報・結果・模試結果等は、ICTを活用して速やかに提供・共有化し、学年や教科の学習・進路指導の改善に寄与するように努める。 ⑤⑥⑬	A		
		進路行事や進学指導の企画・運営について進路指導部を中心に、学校全体で学年に協力出来るような体制作り に努める。 ⑤⑥	B		
保健厚生	生徒の発育・健康状態を把 握 し健康の維持増進に努め る。	心身のケアに生かせる保健室経営に努める。緊急時に備えてA E Dを校内に置き、緊急時に対応できるようにす る。 ⑩⑪	A	A	各教室前の廊下は教室担 当が清掃することになっ ているが、清掃分担がさ れていないケースがあ る。また担任判断で清掃 なしにされることがあり 監督者に伝わっていない ことがあった。
		学校医・薬剤師の協力体制を維持強化する。保健委員の活動促進を図る。感染症の予防に努める。 ⑩	B		
	学習環境の整備と校内の美 化に努める。	日々の清掃に留意し、清潔な学習環境作りに努める。年間計画の中にワックスがけの日程を設定する。 ⑩	B		
		清掃用具を随時点検・補給する。生徒による環境美化の精神を向上させる。 エアコンの適正な運用に努め る。 ⑩	B		
	災害発生に備えて、十分な 準備をしておく。	保健委員・整美委員・防災委員の活動の促進を図り、防災意識を高める。 ⑩	A		
		生徒・職員による避難訓練を実施し、災害発生時における人的・物的被害を軽微に抑えることに努める。 ⑩	A		
図書	図書の紹介や読書指導を 通して、読書意欲の向上を図 り、読書に親しむ態度を育成	生徒・教師の要望を満たすバランスのとれた図書選定をする。 ①⑤⑥⑨⑩⑪⑬	A	A	書架を整理し蔵書点検・ 蔵書評価を行い、でき るところから蔵書更新を進
		新着図書案内の広報活動やブックファンタジーを通して、読書意欲を喚起する。貸し出し図書数と利用者数が昨 年度を上回るように努力する。また、国語科・美術科や学年と協力して、学習課題としての読書感想文や読書感想画	A		

別紙様式 2 (高)

	する。	の読書指導を企画し実践する。 ⑨⑩⑪⑬			める。
		読み聞かせボランティア活動を通して、積極的に読書と社会に関わる態度を養う。 ⑥⑨⑫	A		
	目的意識を持った計画的な 自 主学習を支援し、生きる 力や自ら学ぶ力を育てる。	大学入試の小論文テーマなどを参考にして、主題毎の図書を揃える。 ①⑤⑥	A		
		学年・教科と連携協力しながら図書を購入し、情報を提供するように努める。また、学習室としての機能を充実させて、利用者の増加を図る。 ①③⑤⑥	A		
	視聴覚教育活動の育成、振 興及び健全な発展を図る。	委員会の活動を充実させ、放送や映像制作を通して豊かな言語活動を推進する。 ⑨⑩⑪⑫	A		
渉外	P T A活動の充実	ICTを活用して校内行事の記録・編集・発信を行い、校内行事の活発化をサポートする。 ⑨⑩⑪⑫	A	A	本部役員、委員会委員と 教職員で連携し、各種行 事や委員会活動をより良 いものにしていく。
		P T A活動を通し、会員相互の親睦・共通理解を深める。 ⑩	A		
		P T A活動を通し、生徒の健全育成のための意識を高め、主体的な参加を促す。 ⑩	A		
教育相談		紫輝祭、進学講演会等の各種 P T A 関連行事の企画・運営について、保護者と教職員で協力して実施できるように努める。 ⑩	A	A	校内研修会を現在年に 1 回は実施しているが、継 続的に教育相談の重要性 を伝達していく。 学年、担任と連携し、SC、 SSW の積極的活用を今 後も進めていく。
	教職員の教育相談、特別支 援についての知識を向上さ せる。	校内研修会を実施し、教育相談の知識を身に着けるだけでなく、実践的に生かせるよう働きかける。 ⑧⑨	A		
	組織的・計画的な教育相談 を実施する。	生徒や保護者の希望に応じてカウンセリングが受けられるように調整する。 ⑧⑨	A		
		スクールカウンセラーの効果的活用にも努める。スクールソーシャルワーカー派遣制度を必要に応じて活用する。 ⑧⑨	A		
国際教育		特別な支援を要する生徒に対してケース会議や特別支援委員会を設け、組織的な支援体制づくりを推進する。情報共有に努める。 ⑧⑨⑩	A	A	姉妹校交流の報告を 文化祭などでも行い、 成果を伝えていきたい。 外部団体の案内を今後も 積極的に行っていきたい。
	国際交流を奨励する。	オーストラリア姉妹校派遣の企画・運営を行う。 ⑬⑭	A		
	国際教育事業の宣伝・広報 活動を適切に行う。	姉妹校交流プログラムの周知に努める。 ⑬⑭	A		
	校外関係諸機関と連携し、 国際教育活動の充実を図 る。	外部団体からの事務連絡内容を精選して生徒に案内する。 ⑨⑬⑭	A		
事務局		J I C A や国際交流協会等主催行事への積極的な参加を促す。 ⑨⑬⑭	A	A	開校から 50 年近くなり 施設の老朽化が進んでい るため、施設管理により 注力して安全な学習環境 の整備に努めていきた い。
	安全で快適な学習環境づく りに努める。	校舎及び設備などの定期的な点検を推進し、安全管理に努める。また不備があった場合は早期改修をする。 ⑩	A		
	環境問題を考慮して節約に 努める。	エアコンや照明、及び電気製品の使用において、効率的な節電に努める。 ⑩	A		
		漏水等に注意を払いながら、節水に努める。 ⑩	A		
第 1 学年	会計事務の適正な執行に努 める。	予算の執行について、計画性、経済性、効率性を考慮しながら、最大の効果が出るように進める。 ⑩⑪	A	B	朝活は全クラス足並みを 揃えて実施できており、 朝の SHR に遅刻する生
	基本的生活習慣の確立と規 範意識の向上	挨拶の励行・時間厳守など基本的生活習慣の確立を目指す。校内規則を遵守し、礼儀・服装などに対する意識を高めて規範意識の向上を図る。HR や部活動、委員会活動などすべての活動の中で基本的生活習慣を確立することと規範意識の向上を図る。 ⑧⑩	B		

別紙様式 2 (高)

	主体的学習習慣の確立と基礎的・発展的学力の定着	授業を中心とした学習習慣の定着を図り、予習→授業→復習の学習サイクル確立を目指す。学習習慣の確立をしたうえで基礎学力の定着を目指し、その基礎学力を礎とした発展的な学力の育成とICT活用能力の育成を図る。 ①③⑧	B		生徒は少ない。学習習慣の定着と進路目標の具体化については課題が残る。なお、国数英の学力バランスの平準化に向けて学習支援を行う。
	高い進路目標の設定	個人面談をとおして生徒との信頼関係を構築し、各人に対して丁寧な進路指導を行う。 ⑤⑨	A		
		高い進路目標を設定しそれに向けて努力する姿勢を養う。進路講演会や校外模試などを有効に活用し、機会を逃さない進路指導を行い、進路目標の明確化と的確な文理選択へ導く。 ⑨	A		
	豊かな人間性の育成	HRや部活動、委員会・探究活動などすべての活動の中で各人が責任を持った行動が出来るよう、他者とのコミュニケーションをとおして人間性を育成し、成長を促す。 ⑨⑩⑪	B		
第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	挨拶の励行、時間厳守など基本的生活習慣の確立を目指す。校内規則の遵守、場に応じた礼儀・服装などに対する意識を高めることで規範意識の向上を図る。HRや学校行事、あるいは部活動、委員会活動などすべての活動の中で基本的生活習慣を定着していく。 ⑧⑩	B	A	基本的生活習慣や学習習慣の定着にはなお課題が残るものの、進路目標に対する意識は高まりつつある。また行事を通して協力し合う経験を重ねる中で、互いを理解し合い、人間関係をより深めることができた。
	主体的学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を中心とした学習形態を定着させ、予習→授業→復習の学習サイクルの中で、基礎学力の定着を目指す。ICTや課外を活用し基礎学力の上に発展的な学習を行い、主体的に学ぶ姿勢を育む。 ①③⑧	B		
	確実な進路目標の設定	適切な時機に個人面談を実施し、面談をとおして生徒との信頼関係を構築し、生徒ひとり一人に対して丁寧な進路指導を行う。 ⑤⑨	A		
		一人ひとりのライフキャリアに適した進路目標を設定するため、学問分野について理解を深める機会を設ける。進路意識の高揚に向け、進路講演会や模試などを定期的実施する。時機を逃さずに進路指導を行い、各人の進路実現に向けた環境を提供する。 ⑨	A		
	豊かな人間性の育成	HR活動や学校行事、部活動や委員会活動などを通じ、生徒自らが考え、判断し、活動する機会を設ける。他者とのコミュニケーションをとおして人間性を育成、醸成して成長を促す。 ⑨⑩⑪	A		
第3学年	進路目標の早期設定と適切な進路指導の徹底をはかる。	進路講演会、進路ガイダンス等により進路意識の高揚を図るとともに、各人の将来のキャリアとリンクした進路選択を行えるよう面談等を通じて情報を共有する。 ⑤⑥	A	A	企画内容の精選、仕事内容の記録と蓄積を確実に行う。進学・受験した生徒の受験内容や情報の引き継ぎを整理する。
		個に応じて総合型選抜や学校推薦型選抜、国公立大学個別試験に向けて、早期から計画的に小論文・面接の指導を実施する。 ⑤⑥⑦	A		
	学力向上と受験体制の確立を図る。	授業の質をより高めるとともに、個に応じた課題や小テストによる学習の強化や、課外授業による入試に対応した学力の練成を進める。 ①②④⑦	B		
		個に応じて基礎基本の定着と発展的内容の習得を目指す学習を展開し、進路実現に寄与するとともに、グループワークや探究活動、学校行事やクラス活動を通じて自らの考えを適切に伝え他者とのより良いコミュニケーション能力の向上を図る。 ①⑥	A		
	最高学年としての自覚ある生徒の育成と社会性の確立に努める。	学校行事や部活動においてリーダーシップを発揮し、より良い集団を形成する中核として自覚ある取り組みを図る。 ⑩⑪	A		
		学校の諸活動や行事を通じて、各人の責任の重さと他者と協働することの素晴らしさを体験し、社会性の確立をすすめる。 ⑨	A		

※ 評価基準：A ほぼ達成した。 B ある程度達成した。 C やや不十分であった。 D 不十分であった。